はしがき

序　章　ファッションの八〇年代から化粧の現代へ……1

1　ファッションから化粧へ　1

2　プリクラ、ケータイ、インターネット　9

3　サブカルチャーとしての化粧　13

第一章　少女の消滅——オリーブ少女からコギャルへ……23

1　「メークの天才」を目指す小学生　23

2　オリーブ少女という文化　26

3　コギャルと化粧　36

4　ロマンティックから「今、ここ」へ　43

第二章　物語の終焉——教養小説からキャラクター小説へ……49

1　二〇〇七年創刊『AneCan』を読む　49

2　八〇年代『an・an』を読む　55
3　九〇年代『JJ』を読む　63
4　教養小説からキャラクター小説へ　69

第三章　個性神話の崩壊――コム・デ・ギャルソンからユニクロへ　……79
1　デザイナーは読者モデル　79
2　コム・デ・ギャルソンという神話　85
3　ユニーク・クローズ？　93
4　個性服から制服へ　100

第四章　フラット化する「私」
――「毒（ブワソン）」から「ヤングセクシーラブリー」へ　……109
1　「ヤングセクシーラブリー」な現在　109
2　八〇年代の「毒（ブワソン）」　116
3　幻の水を求めて　121

4　フラット化する「私」　128

第五章　一億総オタク化社会
——モノ語りの人々からコスメフリークへ……137

1　化粧に捧げる二四時間　137
2　着ることは生きること　143
3　ファッション・センスから「ビューティリジェンス」へ　149
4　化粧に萌える女たち　156

終章　私探しから「私遊び」へ……165

1　自己表現から「萌え」へ　165
2　「私遊び」としてのコスメ　167
3　私探しから「私遊び」へ　174

あとがき……179
参考文献
索引